

所報 研究所だより

教育・しまんと

令和5年度
NO. 4

発行 四万十市教育研究所

四万十市国見 222 番地
Tel/Fax (0880) 37-2817
ふれあい学級(0880) 31-1130

★ 二学期がスタート！

一部の小中学校は、8/28、8/29から、9/1からは、市内全ての小・中学校で二学期がスタートしています。

それぞれの学校には、少し日焼けをし、たくましさを感じさせる子ども達の歓声が戻ってきたのではないかと思います。

今年の夏休みも真夏日や猛暑日が続き、熱中症等を含めて、体調管理に気を配りながらの日々ではなかったかと思えます。

9月になってからもその傾向に大きな変化はなく、暑い日が続くことが想定されます。引き続き健康管理に留意しながら、教育活動を推進していく日々になると思えます。

9月の第二週からは、体育祭・運動会、教育文化展、そして各教科の「授業づくり講座」や指定研究の発表会等々、各種行事が計画されています。

児童生徒の安心・安全を確保するとともに、教職員の体調管理にも留意しながら、教育活動の実践、充実に努めていただきたいと思います。

今学期も教育研究所の研修会、諸行事等にご支援ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

★ 「教育講演会」から

少し時間が経過しましたが、7月28日(金)の午後日程で開催した教育講演会では、大阪市立大空小学校の初代校長を務められ、同校での9年間の学校経営に携われた「木村 泰子」さんを講師に迎え、『不登校児や配慮の必要な子ども達に求められる支援とは』の演題のもと、四万十市の教育課題のひとつである「不登校問題」に焦点をあてながら、近年増加傾向にある「配慮の必要な子ども達」への支援等に向けて、貴重な教育実践の数々をご教授いただきました。

この時期、研修会等が重なる中、午前中の各部会に引き続いて、数多くの市内教職員の参加を得て、無事開催することができました。ご協力に感謝申し上げます。

木村先生の講演内容につきましては、「テープ起こし」を行いました。ただ、A4版で20数ページに及ぶ内容ですので、紙ベースでの配布に代わって、グループウェア及び教育研究所のHPで公開することにしております。

各学校におかれましては、二学期以降の職員会や校内研究会等々の場で、振り返りながら日々の教育実践に生かしていただければと思います。

講演会当日の久保教育長さんのご挨拶や講師紹介の徳弘副会長さんも触れられていたように、「木村先生だからできたこと」とか「大空小学校だから云々」という視点に陥らず、それぞれの学校の教育実践に生かすことができる「エキス」を吸収していただいて、教職員一人ひとりの意識改革や学校経営に結び付けていただければ幸いです。

この後、各校からの振り返りを項目毎に学校別で記載しております。事務局としては今後の教育講演会の企画・運営に生かしていくとともに、テーマに特化した講演内容のご意見ご感想に関しては、各校でも参考にさせていただき、二学期以降の実践に生かしていただければ幸いです。

★ 「教育講演会」の振り返りから

< ○:肯定的評価 ●:ご意見、課題

◆感想 ※現状及び来年度の見通し>

【 期日について 】

○ 良かった。夏休み初めの時期に実施することで、二学期からの実践に生かせるので良かった。各種部会と同日なのが良い。

(竹島小、東山小、中村小、藤岡小、大用小、利岡小、具同小、八束小、東中筋小、中筋小、中村南小、西土佐小、下田中、中村中、大用中、中村西中、県立中村中)

● 今回の期日でも良かったが、可能であれば水泳記録会が終わった8月上旬でも良かったのではないかと。(下田小)

※ 来年度は、市の人権教育研究大会が、幡多や県の人権教育研究大会との期日の関係で、前倒しが求められており、7月末の金曜日の開催が濃厚。従って、教育講演会は、講師の都合もありますが、8月第一週の開催になるかも。

【 日程について 】

○ 良かった。適切であった。

(竹島小、東山小、中村小、蕨岡小、利岡小、東中筋小、中筋小、西土佐小、下田中、中村西中、県立中村中)

○ 開会行事がコンパクトにまとめられていたので良かった。(下田小)

○ 開始時間が遅かったので、余裕をもって参加できた。(中村中)

● 講演内容が充実していたため、時間配分や調整が必要。開始時刻を少し早める等、日程を見直す必要があるのではないか。

(下田小、大用中)

● 会の終了が遅くなったので、質疑応答の時間が取れず残念だった。(大用小)

● 14:30開始は少し遅く感じた。

(具同小、中村中)

● 出来れば午前中が良い。(八束小)

● 受付から開会まで30分間あり、待ち時間が長く感じられた。(東中筋小)

● 部会と講演会を抱き合わせにすると、遠方の学校の先生は帰ることもできず、年休を取って待つことになっていた。午前中の部会は別日に設定、または各部会が計画して実施できるようにしてほしい。(中村南小、西土佐中)

※ 部会の研修日として位置付けてはいますが、各部会で協議し、別日の開催も可能になっています。

● 開始時刻はいいが、終了時刻は厳守してほしい。(中村南小)

【 会場について 】

○ 良かった。丁度良い広さだった。

(竹島小、中村小、蕨岡小、利岡小、具同小、中筋小、八束小、東中筋小、西土佐小、大用中、中村西中)

○ 冷房の効く会場で良かった。(下田小)

○ 来年度は文化センターが新設されるので、駐車場も離れたところではないと思うので助かる。(中筋小)

※ 文化センターは取り壊され新設の計画はありません。ただ、文化複合施設「しまんとピア」が出来上がるので、そこを仮予約しているところ です。

● 会場が少し暑かった。(竹島小、東中筋小)

● 来年度は「しまんとピア」にしてほしい。

(中村南小)

● 腰痛のある先生にとっては、辛そうだった。新しいホールが待ち遠しい。(下田中)

● 座席の指定がなく前席に空きがあったので、学校ごとに座席の指定があればよかった。

(東中筋小)

※ コロナの関係でここ2年間は学校毎に座席指定を行いました。本年度は状況に鑑み元に戻しました。開会前に司会より前席に移動していただくよう呼びかけ、何人かはご協力いただいたことでした。

【 講演内容について 】

◆ 大変参考になる有意義な講演会だった。非常に良かった。「学校教育とは」という原点を改めて考えることができたと思う。四万十市の全教職員が、木村先生のお話を聴くことができたことはとても意味があったと思う。2学期からの実践にすぐ繋げたいことや、教員として大切にしたいことがたくさんあった。(竹島小)

◆ 大空小学校の取組や支援に対する姿勢等、学ぶことが多い講義でした。独特の経営方針で、すべての子供たちがしっかりとした大人になっているとすれば、見習う点は多々あると感じました。今後の教育の在り方、子どもたちへの関わり方について、振り返ることができました。

(下田小)

◆ 誰のための学校なのか、何のための学校なのか、改めて深く考えさせられました。目の前の子ども達と真摯に向き合い、「みんなの学校」を地域全体で創り上げていきたいと思った。

チームが一丸となって子ども達に向き合う場面や、子ども自身の思いを言葉にして周りに伝える様子に心が揺さぶられました。子どもに寄り添うことを日々実践している記録は、参考になるばかりでした。木村先生の話し方にも引き

込まれました。

今の教育界に「人の力を利用する力」が求められていることが良く分かり、感動した。難しいだろうが、それが実践出来たらいいと思う。

配慮の必要な子ども達への支援を映像とともに話をしてくださったので、分かりやすかった。「4つの力」「たった一つの約束」など、これから大切にしていきたいと思った。大変大変良かった。延長しても苦ではなかった。もっと聞きたかった。

具体的に話してくださったので、木村先生の大空小学校での取り組み(何を大切にしたか)がよく分かりました。

とても分かりやすく身近なテーマで参考になった。もっとつつこんで詳しく聞きたい部分もあった。ありがとうございました。

2学期から前向きに頑張ろう、実践に生かそう、と思えるような内容でした。本当に大切にしないといけないことは何か、改めて考えさせられました。教育観を見つめ直すきっかけになりました。

実践に基づいた話で、興味を引かれ、分かりやすかったです。大空小学校のような取り組みは理想だが、とても大変だと思います・・・

内容は興味深かったが、今の私たちの現状に置き換えて考えてみたら・・・少し難しさを感じた。

(東山小)

- ◆ 学級の児童の様子と照らし合わせながら、講演を聴くことができた。2学期からの学級経営に役立てたい。同じ枠に入れるのではなく、子ども一人ひとりの実態に合わせて支援していくことの大切さが伝わってきた。しかし、難しさも感じた。全教職員で同じベクトルで実践しなくてはいけない。地域や保護者も同じベクトルで見守ってもらうことが大事だと強く感じた。

教職員・サポーター・地域の人が本気になって学校をよりよくしていこうと取り組み、「その子がその子らしく育つ」のように教育に携わっていくことの重要性を考える大切な時間となった。

特別な支援を必要とする児童等、多様な子どもが在籍する中で、子どもの可能性を信じてあげることが大切だと思った。

自分達の現場のこととはかけ離れていることもあるが、動画や講演で刺激を受けた。自分一人

では何もできないので、組織として、同じ思いで改革できれば学校は変わると感じた。(中村小)

- ◆ 四万十市の課題に応じた内容で、良かったと思います。講演を聞いて、どこでさび分けをするかは難しいが、大胆な改革は必要だと思いました。(藤岡小)
- ◆ とても良かった。フロアからの声は出しづらかったです。一人ひとり色々な事情を抱える子どもとの接し方、対応の仕方について考えさせられました。(大用小)
- ◆ 記録映像から、学級指導の困難度や教員の関わり、支援方法がよく分かった。講師である木村先生の話術が巧みで惹きつけられた。多様な特性を持つ児童に対する指導・支援として、以前のような「学級担任が」という考えではなく、その児童に多くの人(教員、保護者、地域の人)がかかわることで児童の成長を促すことができるということを改めて感じた。(利岡小)

- ◆ 学校現場のリアルな状況や、どのような取組をしてきたか、地域とのつながりの大切さがよく分かった。

手立てが必要な児童に対しての手立てについて考えることができた。

2学期からまた頑張ろうという前向きな気持ちになれる内容で良かった。

木村先生の実践やお言葉から、2学期から生かしていきたいことがたくさんあった。特に、子どものかかわり方や働き方など、今までに聞いたことのない視点でのお話でとても良かったです。

とても大切なことを学びました。一方、高知県や四万十市の現状とかけ離れているところもあり、どのように活かしていくかは思考が必要だと思いました。自分の学級で実践することは自分の意識次第ですが、学校全体・市全体になってくると・・・

何を大事にしていくのかを、職員同士で共通理解を図りながら行っていた。また、全職員で個に応じた指導をしていたので参考になりました。

自己決定させながら、児童とかかわっていくことが大事だと改めて気付かされました。

それぞれの地域性があるからこそ成立した部分もあると感じました。すべての学校が目指せる部分ではないと思いますが、必ず学べるところや、取り入れることで改善することのできる

ことが多々あったと思います。児童だけでなく先生自身も4つの力を意識していく必要があると思いました。

自分の学級の児童やこれまでにかかわった児童のことを思い浮かべながら聴くことができました。講師の先生の具体的な実践を動画を用いて教えていただいたので、大変分かりやすかったです。2学期からも頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。

日々の様子と重なる部分があり、自分を振り返りながら講演を聴くことができました。反省も含め、今後に生かしていきたい。児童の特性を理解し、一人ひとりを大切にしていきたいと思う。

(具同小)

- ◆ 大変勉強になりました。立場関係なく職員室で意見を交換出来る環境が大切だと感じました。

学校のしくみについて見直しが必要なことがわかりました。優先順位をつけて、少しずつでも時代に合ったカタチに変えていけたらいいなと思いました。

間違ったことをしてしまっても「やり直し」をすればよこと、長い時間がかかっても寄り添い続けることで、子どもは成長していくことがわかりました。明日からの指導に生かしていきます。

時代に合わせた教育を考え、目指していきたいと思いました。また、子ども達に寄り添える教師でありたいと思いました。(八束小)

- ◆ 学校としての新しい取組・考え方を知ることができた。「見えない学力」と「見える学力」が上がるというお話が印象に残った。

実践的な内容が聞けてとてもよかった。すべてを捨て去ることはかなり勇気があることだとは思いますが、そこから何かを得るためには必要なことかもしれないと感じた。

全職員で講演の内容を共有して、組織としてのありたい姿を考えたい。実践を通しての内容で、とても参考になった。とても面白く学ぶことができた。勉強になった。認められにくい子ども達をどのように受け止めるか、また、子どものメタ認知能力を高めるための支援について知ることができ、大変よかった。

話の内容がとても分かりやすく、これからの支援や声かけに役に立つ内容であった。見えない

い学力を大切にすることで、見える学力が結果としてついてくることにはとても共感できた。

実践例が聞けたので、自校のことに関連付けて考えることができた。

「どの子どもも大事にする学校」「学校全体で一人一人の子どもを見ていくこと」の大切さ、みんなに見守られて必要とされていると実感できてはじめて心を開けるのだと思った。子どもも大人もみんながしんどさを一緒に分け合って、少しずつよい方向へ向かっていったお話をお聞きして、すぐに結果を求めたり苦しい状況が耐えられないと思ったりするのではなく、今の状況をどうすべきか前向きに考えていくことが大事だと思った。(東中筋小)

- ◆ すごく考えさせられたお話でした。誰とでも本気で関わり合うことをやめてはいけないと感じました。日々の忙しさの中で諦めてしまったり、忘れてしまったりしていることに気付ける時間となりました。

「自分にされて嫌なことは、人にしない。」本校の目指す児童の姿と同じです。時間を忘れて聞きながら、自分の本気度を何度も問われた講演内容でした。

話題が常に身近にあることで、自分を振り返りながら聞ける内容でした。二学期の教育実践に生かされる内容だったと思います。(中筋小)

- ◆ とても興味深いものであったが、四万十市の公立の学校の実態との違いも感じた。

(中村南小)

- ◆ 社会で生きて働く力について知ることができた。

学校に来にくい児童に対する支援を、具体例を交えながら講話してくださったのでとても分かりやすかった。「みんなの学校」の取り組みは、どの学校でもすぐに真似して実践できることではないが、子どもたちがのびのび生活できる学校で良い取り組みだと思った。身につけた4つの力、たった一つの約束、シンプルで分かりやすく共感できるところがたくさんあった。

自校の子どもたちの現状から、またこれから求められる力をしっかりとらえて、見えない学力(力)の育成に向け取り組んでこられたこと。また、地域のマンパワーを生かしながら、地域で子どもを育てるという視点で取り組んでこ

られたこと。思い切って取り組みの大変革をしていったこと。すごい力のいることですが、そのくらいの思いを持っていないと本当にいい学校づくりはできないなと感じた。自分もできることからみんなで変えていけるところは変えていきたいと感じた。

学級経営や教育に関わる場面以外でも取り入れることができる考え方を学ぶことができた。

地域と学校が手を取り合うことで、子どもたちの援助希求能力が高まり、将来、自立して生きていけることにつながるということが分かった。また、自分で様々なことを選択することで責任感が生まれ、当事者として活動を取り組める児童に育つのだと思った。大空小学校の先生たちが真剣に子どもたちに向き合っているから、その姿を見て子どもたちも真剣に自分自身や友達に向き合えるのだと感じた。

木村先生の体験談から、配慮の必要な児童への支援の仕方についてお聞きすることができて、とても勉強になった。

慣習的にどこの学校でもしていることを辞めた話が興味深かった。最後のスライドにあった大空小学校でやめたものについて詳細をもっと聞いてみたい。(報連相や校内研を廃止とあったが、全く何もしないのか、代替とした時間があったのかなど) (西土佐小)

- ◆ 実践に基づくお話で大変分かりやすく好評でした。

自分たちの実践で迷っていたことが後押しされたようで2学期からの実践にすぐに生かせそうです。(下田中)

- ◆ とても有意義な時間となりました。もっと生徒に「？」を投げかけ生徒の考えていること、思っていることを感じ取れるようになりたいです。

2学期からの実践に生かせるものであり、大変勉強になりました。生徒が主体であること、今までの自分の考え方を変えていく必要があることを感じました。目の前にいる子どもたちを認め、寄りそっていける教師でありたいと思います。

VTRでの殴り合った子どもたちのその後の姿に思わず涙ぐんでしまいました。子どもの可能性はすばらしいです。

教職員、子ども、地域の1人1人が同じ目的

意識をもって学校をつくることの大切さを考えさせられました。どのような学校を目指すべきなのか意識が変わりました。不登校の児童への支援について、もう少し話を聞いてみたかったです。

本校のいろいろな生徒の様子と重ね合わせながら聞くことができました。生徒に自分の考えを表現させることや、自分で何かを決定したり選択したりしていくことを気長にやっていくこと、また、悪い行いをした場合、その行いは許されないことではあるが、その生徒の存在自体は認め続けていくことの大切さを改めて学ぶことができました。

すべての子どもの学習権を保障するためには、「指導」よりもその子がその子らしく育つための「環境」を整えることが重要であると学びました。何か起こった時にまず子供を指導するのではなく、自分を振り返り、人のせいにならず、常に自分が当事者であることを忘れず行動していきたい。(中村中)

- ◆ 講演を聴き、自らの勉強不足を反省した。講演内容に共感できるところがたくさんあり、改めて自分自身を振り返る良いきっかけとなった。先生にとっても子どもにとっても、学校のあべき姿(目指す姿)を考える良い機会となった。また、実践に基づく話で、わかりやすく勉強になった。(大用中)
- ◆ 学校では当たり前の役割や義務を取っ払って、最上位の目的である「すべての子どもの学習権を保障する」ことを第一に考え、個性溢れる学校を教職員・保護者・地域の方々・児童全てが関わり合い、支え合って創りあげていることがとても印象的でした。すべての主体が「自分」であることは本校の教育目標にも重なる場所なので、自分の意見を持って深まり合えるような環境作りや関わりを考えていきたいと改めて思いました。先生方が真剣に子どもに向き合っている姿に感動しました。人間と人間のつながり、それをしっかりとつないでいく教師の仕事はやはり素晴らしいと思わせて下さった講演でした。教職員の目指す方向性が同じベクトルであるなど思いました。また、それを引っ張っていく管理職のリーダーシップも素晴らしいと思いました。どの子も取り残さない、をまさに実践されている先

生方の思いが伝わる講演でした。(中村西中)

- ◆ とても分かりやすくそして深い講演でよかったです。自分がかたく思っている部分をストレートに子どもたちとかけひきなして接するところや今は特に生徒一人一人全く違うのでその多様なかわり方を柔軟にできるようにしていかなくてはと思わせてくれた講演でした。

良かったです。「すべての子どもの学習権を保障する」という目的で開校して公立小学校の実践を興味深く聴かせていただきました。ひとり一人の目の前の子どもに先生方が丁寧に向き合っている姿に感銘を受けました。まずは職員室で教員が本音を出して子どもの話をしていくことから始めていきたいと思いました。

木村先生のことは聞いたことはありましたが詳しいことは全く知りませんでしたので、講演が聞けてよかったです。いろいろな意見はあると思いますが、行動力、パワーはすごいと思います。

話の内容は大変示唆に富んでおり、日々の実践に繋げようと思う点がいくつかあり、大変良かったと思います。

内容はとても印象に残るものだった。優先順位の最上位が「すべての子どもの学習権を保障する」ということ。また「すべての子どもの学習権を保障する」学校をつくるために「捨てたもののリスト」などが印象に残っている。

身近にある課題に対しての示唆に富んだお話で大変参考になった。

非常に良かった。自校での是永 T を招いての校内研とも内容がリンクしており、小手先の取組ではなく、「つなぐ」という視点とそれに基づいた日々の実践が大切であることを確認できた。

とても参考になる点が多くあった。今ある学校の役割として、生徒同士の関わり合わせ方が重要であることに納得がいった。「やり直し」という言葉は、使いやすく明日からも実践できると感じた。

1人の教員だけでなく、学校の全教職員、地域のサポーターが一体となって子どもと関わる体制が素晴らしいと感じました。

今までの自分が勤務してきた学校では、考えられないような改革をされていて驚きました。すべて一緒のところは到底できませんが市内の教職員が一斉に同じお話をきき、一つでも実践で

きることを各校で進めていけるといいなと思いました。(西土佐中)

- ◆ 現場の課題に沿った内容で、大変参考になった。(県立中村中)

- 「みんなの学校」のドキュメンタリー映画を保護者や地域の方と観てみたいと思う。教育委員会にDVDがあればいいなと思う。(竹島小)

- 内容については、とても参考になったが、実践していくには、抜本的な改革が必要であると思った。(中村南小)

【 その他 】

- ・ 質疑応答、または昨年度のようなパネラーとの討議の時間があってもよいのかなと感じました。生の声で意見を言い合える機会があればと思います。(下田小)
- ・ 会場の前の席があんなに空くのは失礼だと思った。(東山小)
- ・ 事務局の皆様にはご苦勞様でした。感謝申し上げます。この講師を招聘するにあたり、ご尽力されたすべての方々に深く感謝いたします。特に教育研究所藤原所長様をはじめとする所員の方々、段取り、準備、片付け等、本当にありがとうございました。
- ・ 市内各校が一つの会場に集まるのではなく、各校オンラインで参加できるよう今後検討していただきたい。(中筋小)
- ・ 会場とのやり取りを重視しながら話していただき、全員が引き込まれていたと思う。時間的に厳しい状況だったが、質疑応答(最後)の時間があればよかったと思う。(大用中)
- ・ **研修として参加を求められているのに、学校によっては留守番として残る指示を受け、参加の意思があったにもかかわらず残った職員がいるとのこと。留守番は不要では？(中村中)**